

第 1 回

東京都政策連携団体

経営目標評価制度に係る評価委員会

議 事 録

令和 3 年 6 月 1 1 日

東京都総務局 総務部グループ経営戦略課

東京都政策連携団体経営目標評価制度に係る評価委員会（第1回）

日 時：令和3年6月11日（金） 午後1時32分～午後2時35分

場 所：都庁第一本庁舎12階 会議室（WEB会議開催）

1 開 会

2 議 題

東京都政策連携団体経営改革プランー2020年度経営目標の達成状況の評価について

3 閉 会

出席者： 委 員 上 山 信 一 慶應義塾大学総合政策学部教授
委 員 木 下 哲 木下公認会計士事務所
委 員 藤 田 由紀子 学習院大学法学部政治学科教授
委 員 三 田 妃路佳 宇都宮大学地域デザイン科学部准教授
委 員 宮 木 由貴子 第一生命経済研究所ライフデザイン研究部長
主席研究員
委 員 山 田 英 司 日本総合研究所リサーチ・コンサルティング
部門理事

事 務 局 金久保 グループ経営戦略担当部長
相 川 グループ経営戦略課長
久 葉 グループ経営戦略課統括課長代理

○事務局（久葉課長代理） それでは、これより第1回東京都政策連携団体経営目標評価制度に係る評価委員会を始めさせていただきます。

初めに、総務局グループ経営戦略担当部長の金久保より、一言御挨拶を申し上げます。

○事務局（金久保部長） 本日はお忙しい中、お時間をいただきまして、誠にありがとうございます。4月1日付で総務局グループ経営戦略担当部長に着任しました金久保と申します。改めまして、どうぞよろしくお願いいたします。委員の皆様方におかれましては、日頃から都政に対する多大なる御支援、御協力をいただきまして、心より感謝とお礼を申し上げます。

昨年度より御意見をいただいております新たな経営改革プランにつきましては、5月に公表、そして、先日行われました第2回都議会定例会で報告させていただきました。この間、貴重な御意見を承りまして、誠にありがとうございました。

本日でございますが、昨年度設定しました2020年度の経営目標に対する各団体の達成状況の評価につきまして、委員の皆様方の御意見を承りたいと考えております。2020年度の評価に当たりましては、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴うやむを得ない事業の中止や延期などについては配慮するとともに、都と連携した緊急対応など、各団体の業務実態を十分に把握して、委員の皆様方に御意見を頂戴しながら、東京都として適切に評価してまいりたいと考えております。

また、各団体の評価結果につきましては公表するとともに、都議会定例会で報告するという予定になってございます。

本日も是非忌憚のない御意見、御助言をいただければ幸いです。是非、今後ともよろしくお願いいたします。本日はよろしくお願いいたします。

○事務局（久葉課長代理） それでは、まず初めに、委員会の実施方法について御説明いたします。本日の会議は、ウェブ会議システムを活用して実施し、委員の皆様にはリモートによる参加をいただいております。対面ではございませんので、委員の皆様をこの場で御紹介させていただきます。

まず、慶応義塾大学総合政策学部教授、上山委員でございます。

○上山委員 上山です。よろしくお願いいたします。

○事務局（久葉課長代理） 木下公認会計士事務所、木下委員でございます。

○木下委員 木下です。よろしくお願いいたします。

○事務局（久葉課長代理） 学習院大学法学部政治学科教授、藤田委員でございます。

○藤田委員 藤田です。よろしくお願いいたします。

○事務局（久葉課長代理） 今年度より委員に御就任いただきました、宇都宮大学地域デザイン科学部准教授、三田委員でございます。

○三田委員 三田です。よろしくお願いいたします。

○事務局（久葉課長代理） 同じく本年度より委員に御就任いただきました、第一生命経済研究所ライフデザイン研究部長主席研究員、宮木委員でございます。

○宮木委員 宮木でございます。よろしくお願いいたします。

○事務局（久葉課長代理） 日本総合研究所リサーチ・コンサルティング部門理事、山田委員でございます。

○山田委員 山田でございます。よろしくお願いいたします。

○事務局（久葉課長代理） 続きまして、都側出席者を紹介いたします。

先ほど御挨拶をさせていただきました、総務局グループ経営戦略担当部長、金久保でございます。

○事務局（金久保部長） 金久保です。改めましてよろしくお願いいたします。

○事務局（久葉課長代理） 総務局総務部グループ経営戦略課長、相川でございます。

○事務局（相川課長） 相川でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（久葉課長代理） 最後に、私、司会進行を務めますグループ経営戦略課統括課長代理、久葉でございます。

続きまして、本日の委員会の公開に関する取扱いについてでございます。本日の会議録につきましては、委員会設置要綱に基づきまして公開することといたしたいと存じますが、これに御異議ある方はいらっしゃいますでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

○事務局（久葉課長代理） ありがとうございます。それでは、本日の会議録につきましては公開することとさせていただきます。

それでは、次第に沿って議事を進めてまいります。

議題、「東京都政策連携団体経営改革プランー2020年度経営目標の達成状況の評価について」、グループ経営戦略課長の相川より御説明させていただきます。

○事務局（相川課長） それでは、私、相川のほうから御説明申し上げます。資料「経営改革プランー2020年度経営目標の達成状況の評価」を御覧いただければと思います。

まず、1枚目のペーパーについてです。上半分の緑色の部分でございます。これから実施いたします2020年度評価のスケジュールを載せさせていただいております。6月のところ

に「第1回評価委員会」と今回の委員会の記載がございます。団体のほうからは、来週中頃に、また次のページで御紹介いたします評価シートを事務局に提出していただく予定となっております。評価シートを事務局で確認した後、先生方へお渡ししまして、7月から団体へ調査のヒアリングを行っていく流れとなっております。このヒアリングでの御意見を踏まえまして、各団体が評価シートを修正し、事務局のほうで先生方の御意見をまとめまして、第2回評価委員会でその中身を御確認いただき公表していくという流れでございます。公表の後、その御意見を踏まえ、都のほうで団体をそれぞれ評価いたしまして、評価結果の公表を行わせていただきます。

なお、東京2020大会の準備等があることから、幾つかの団体は評価シートの提出がやむを得ず遅れるという連絡を受けております。それらの団体のヒアリングの時期につきましては、また追って事務局のほうから御相談させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それから、下半分の黄色い部分でございます。こちらは、2022年度に向けた経営改革プランの改訂ということで、改訂のスケジュールを御参考に載せさせていただいております。

ですので、今年度全体としましては上半分の2020年度の評価、これを前半に行い、2022年度に向けたプランの改訂につきましては、年度の後半に行っていくというのが全体のスケジュールでございます。

続きまして、2ページ目を御覧ください。こちらは、先ほど申し上げました団体のほうから来週中頃に提出してもらいます評価シートでございます。このシートの様式が、2枚目と、それから3枚目となっております。

まず、2枚目ですが、こちらは例年と同様の形式でございますが、資料の真ん中の下のところに囲みで記載しておりますが、予定しておりました2020年度の計画に対しまして、コロナの影響によって生じたやむを得ない取組の変更や、その要因につきましても、今回、新たにコロナの影響という欄を設けまして、そこに○を付けてもらって記入、説明をするということとしております。

また、今回は2018年度からの3か年計画の最終年度でございますので、資料上部の「3年後（2020年度）の到達目標」に対する2020年度末の実績等につきましても、コロナの影響を適切に踏まえつつ評価対象としていくべきと考えてございます。

続きまして、3枚目でございます。こちらが今年度新たに設けました様式でございます。新設しました趣旨でございますが、資料の上のところにも書いてございますが、コロナの

対応につきまして取組の把握等を行うとともに、団体の主体的な緊急対応について評価するというものでございます。この様式は、資料の一番下の※にも書いてございますが、経営改革プランで記していた戦略自体の実施が不可能であるなど、既存の戦略では2020年度が取組が評価できないと、そういった場合に資料の中の囲みにございますとおり、団体が担うべき新たなミッションが生じ、取組を進めている場合に団体が提出するものでございます。

御説明申し上げました2枚目、3枚目共に、これから団体が提出し、その後、こちらで内容を確認してからとなりますが、コロナの影響の評価の在り方についても、今後、先生方から御意見をいただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

続いて、参考資料の説明のほうも手短かにさせていただきます。

まず、参考資料（1）につきましては、この経営改革プランの評価シートでございます。ただ今御説明しました2枚目と3枚目の様式になっています。

それから、参考資料（2）でございます。こちらは、「東京都政策連携団体が策定する次期経営改革プランに関する評価委員意見について」というもので、これは、5月末に公表させていただきました参考資料（3）—1・2の次期プランの策定に当たりまして先生方から御意見をいただき、まとめたものでございます。このうち、次期プランの策定以後に向けた内容として記載が幾つかございますので、御紹介いたします。

まず、6ページでございます。ページの中ほどに、公園協会の記載がございます。公園協会は、経営改革を進める上で、今後も進捗管理をしていくということを記載してございます。それから、同じページの下の部分から次のページにかけまして、先生方から御意見をいただきました4種類の整理について記載してございます。4つの類型に団体を整理しつつ、類型化による対応を引き続き実施していく、またその分類については適宜見直していくという内容になっております。

それから、10ページでございます。一番下のところから次のページにかけまして、類型1の団体を中心に、コストダウンや資金調達の方法について検討すべきであること、また公益団体等においても収支均衡を図ること、それから団体の財務運営について資金繰りの常態的なウォッチの必要性、これらについて言及してございます。

それから、17ページです。このページ以降の横向きのページについては一番右側の列のところで、今後団体が検討を深めていく事項として、団体別に先生方からいただいた御意見を記載してございます。

それから、参考資料（３）―１・２につきましては、５月末に公表させていただきました
2021年度から2023年度の新たな経営改革プランを参考として添付してございます。

資料の説明は以上でございます。本件につきまして、御意見、御質問等がございましたら、
どうぞお願いいたします。

○三田委員 ４種類の類型と評価の表はどのように結びついているのでしょうか。

○事務局（相川課長） 評価の表というのは、評価シートのことですか。

○三田委員 そうです。評価シートには種類のことが書いていないのですが、コロナに応じて
類型化されたものがあって、これを加味して評価をするということだと、どこにそれが
反映されているのかが分からなかったのですが。

○事務局（相川課長） 類型につきましては、評価シートと直接リンクはしておりませんが、
今後の団体等のヒアリングの中で類型ごとに従来と違った視点で資料を出していただくとか、
こちらのほうから資料を用意させていただくとか、少しヒアリングの時間を長くして
いただくとか、そういったことを考えております。

○三田委員 分かりました。ありがとうございます。

○山田委員 お疲れ様です。御準備、どうもありがとうございます。

恐らく先ほどの三田先生の御質問のところで、ヒアリングの概要などを併せて説明いただ
ければ今までの類型がどういう議論でなされており、団体数が結構ありますので、時間配
分等、議論すべき内容を明確にするために類型分けをしたというところを共有いただければ
御理解いただけるのかと思っています。

今回、資料１の３枚目のとおり、評価シートを追加されていると思いますが、過大評価に
も過小評価にもならないようにするというのは非常に重要なことかと思っています。団体の中
には、自主的にやってきたものと緊急対応的にもう粛々とやっていただいたものがある中
で、このようなシートがあると、内容を埋めるためだけの作業になりがちなので、どうい
う形で効率的になされたのかというのは、こういう非常事態なのでそもそも効率的にでき
るはずがないものも含まれていたり、必要以上にやる、やらないみたいなことが書かれて
いるケースもございますので、事務局で見ていただく際に、確認していただく必要がある
かと思っています。粛々と局のほうから追加要望を受けたものについては、どんな形で、どのよ
うに運営され、本体の事業執行に何らかのプラスマイナスの影響を及ぼしたのかについて、
議論できればいいと思っています。

○事務局（相川課長） ありがとうございます。御指摘のございました団体によって過小・過

大にならないようにというのは、確かに団体自らやっているものと、局から言われて粛々とこなしているものとございますので、その辺は分かりやすいように整理したいと思っております。

○山田委員 こういった大変な環境の中で、それを優先してやっていただくということ自体が悪いことではないと。当然やらなければいけなく、そのために局との連携というのは非常に重要だと認識をしていますので、そこは過小でも過大でもなく、ありのままを書いていただいて、それをどのように評価をするかというような議論をしていけばいいのかなと思っております。

○事務局（相川課長） ありがとうございます。

それから、ヒアリングの概要を共有というお話もございましたので、少し簡単にですが説明させていただきます。今後予定しておりますヒアリングですが、4つの類型について、類型の形をまた御意見をいただいて少し変えていく必要があると思いますが、特にどの団体も同じ時間数でやるというわけではなく、団体の類型の性質ごとに時間も配分も決めていきたいと思っております。例えば、コロナの影響で財政難になっている団体であれば、もう少し詳しい資料を出していただき、ヒアリングの時間も長めにとっていく必要があるなど、あるいは今後の在り方について詳細なヒアリングの必要がある団体につきましては少し時間を長めにする。あるいは、逆に、この委員会ではよく粛々系と申しておりますが、今の事業をこなしていく団体につきましては、事業の確認や、あるいは少し時間を短めにとっていく形で編成していきたいと思っております。

○上山委員 類型の話ですが、また類型が自己目的化しないようにしていただきたいです。一番最初の頃は一律にヒアリングを実施しておりましたが、その中で、これは団体の問題ではなく局側の問題というのが結構出てきました。それで、むしろ局中心のヒアリングを実施し、団体そもそもの存在意義や大きな改革目標がある団体が炙り出されてきました。そうしたことを局に打診しましたが全然動かない団体については、更にごりごりやろうということで、ここ2～3年、Ⅲの団体や期待の団体として、特出しをやってきました。類型の基本は、粛々系か、特出しか、その他かというのが根っこにあります。

その後、コロナが出てきたため、コロナで大変な団体については、昨年度は免除とするかもしくはコロナ対応の内容は委員がチェックする必要があると整理しました。また、ポストコロナでチャンスである団体や経営が厳しい団体については、それぞれ取組状況や今後の対応について確認する必要があるなど整理し、団体ごとの類型というのが出てきまし

た。

役所は、類型による定義などが大好きなため、最近は会うたびに類型マインドが育っているような気がする。あくまでそれぞれの団体の特性を見極め、この団体は粛々でいいとか、この団体はコロナで大変な状態であるとか、それを見ていくというのが基本である。事務局というより、我々ヒアリングする側の心構えの問題ですが、この類型だからこうだとかというよりは、便宜上たまたまそのように分けないと事務局も委員も困るからそうしているだけであって、基本的には粛々か、改革が必要なのか、コロナでお金がないのか、その辺を特に意識して、事務局も各団体と接していただきたいし、我々委員もヒアリングの際にそういった観点からめり張りを付けていったらいいのではないかと思います。

○事務局（相川課長） ありがとうございます。確かに我々事務局も類型化が目的化しつつあるところもあったかと思いますので、その辺は気を付けてやっていきたいと思います。

○上山委員 あと、特出し的なテーマは、毎年何か出てきます。以前は、あまりガバナンスが効いていない団体に対して、特に注文を付けてやっていたわけです。注文を付けると非常に頑張ってよくやっていただいたのが農林財団だと思います。そういう意味でいうと、従来は問題を抱えているが進捗が芳しくない団体を特出しにしていたしましたが、前年度から、期待をかけた前向きな意味で特出しという団体として歴文など、4団体が出てきたわけです。これまで毎年、特出して細かく見たほうがいい団体を、4、5団体抜き出してやってきました。今年度の切り口は、主にコロナですが、財務的な問題を抱えている鉄道事業を中心とする団体や、DXがもう一つ大きなテーマとなりますね。ほかには、株式会社の団体であるのに、まるで財団みたいという問題もずっとありますね。東京水道は、いつも特別ですが。

今年度、特化すべきところは事務局から見て、どう思いますか。

○事務局（相川課長） ありがとうございます。今、御指摘のあったとおり、財政的に厳しい団体については、去年以上にしっかり見ていかななくてはならないと思っております。ほかにもDXにつきましても、今年度都庁でもそういった動きが出ておりまして、団体のほうにも広げていく流れもございますので、その辺りの視点も必要なのかと思っております。それ以外にも、深掘りする団体は幾つか必要なのではないかと考えております。

○山田委員 山田です。よろしいですか。

○事務局（相川課長） はい。

○山田委員 そういう意味でいうと、つながり創生財団や学校支援機構は立ち上がりが浅くて、

言い方を変えると、初動が悪ければ最後まで悪いという話になってしまうので、設立経緯や局との連携している内容や、自主事業としてやるべき事業といったところは、評価は別として、次期プランに向けてどのようなことを考えているのかみたいなことは議論としてはあるのかなとは思っています。

○事務局（相川課長） ありがとうございます。確かに新しい団体については、そういった視点で今後どうしていくのかというところを見ていきたいと思います。

○上山委員 あと、総務局による横断的な人材の採用や、DXの推進など、束ねて面倒を見たほうがいいのかという話がありましたね。

また、交通や水道の団体となりますが、高卒の人たちを地方から採ろうとしますが、なかなか採れないというのもありますね。あれは一緒にやったらというような話をしていましたけれども。

○山田委員 土木系の技術職員は、新卒採用は東京都のブランド力を使って横で採用したらどうだという話や、もう一つは一方、新卒を戦力にするのは技術系の場合、最低でも5～6年は必要になるので、中途採用や、いわゆる協力していただいている会社から出向を受け入れていくということを考える必要があるほか、インフラ系の株式会社は人材計画を共有化しローテを取るなど、横連携で人をどのようにシェアできるかを検討すると良いなどの話を過去にした記憶があります。

○上山委員 その辺は、人材プール機関みたいなものをつくらないと、縦と縦の会話というのは始まらないかもしれない。横組織をつくらないと縦と縦は繋がらない。オリパラから人が戻ってくると、人関係で動かしやすくなるので、その辺は考えておくといいかもしれません。総務局の仕事であって、ヒアリングとは直接関係ないかもしれないが。

○藤田委員 藤田です、類型化のことで、御質問も兼ねてよろしいですか。

○事務局（相川課長） はい。

○藤田委員 先ほど上山先生から類型化にこだわり過ぎてはいけないという御指摘がありまして、本当にごもっともだと思います。一方で、ヒアリングのめり張り付けなどの目安にするために、ある程度の類型化というのはやはりあったほうが良いのではないかと考えております。また、私もコロナを基準にした類型化はもう外したほうが良いのではないかと考えております。山田先生がお示しになりました、戦略・ミッションの抜本的な見直しが必要な団体なのか、財務のモニタリングが必要な団体なのか、あるいはそれ以外の課題に対するモニタリングが必要な団体なのか、また、粛々系の団体なのかといった類型化が良い

のではないかなと思いました。

2020年度の評価に係るヒアリングではありますが、どの団体のヒアリングの時間を比較的多く取って重点化するかを目安に、次期プランで経営改革目標を設定している団体かどうかも考慮したほうがいいのではないかと思います。2020年度評価と、2021年度以降の目標及びそれに対する評価は違うものですが、団体の運営は継続されているものであるため、今後の経営改革目標も見据えて、ヒアリングの重点化の際に考慮したほうがよろしいのではないかといった御提案です。

○事務局（相川課長） ありがとうございます。後段でお話し頂いた件ですが、例年のヒアリングも評価のお話だけでなく、次にどう繋げていくかという視点で御意見をいただくことになるかと思いますので、御提案いただいた御趣旨で合うのかなと思っております。

前段でお話しいただいた類型につきましては、あまり目的化しない程度ではございますが、また皆様からも御意見をいただきながら、より今のものを進化させていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

木下先生、いかがでしょうか。

○木下委員 木下です。

類型の議論等もありましたが、全体の方向としては今まで御説明いただいた中で進めていけばいいのかなと思います。また、先ほどありました、総務局による資源の共有については、団体の評価シートではあまり表面には出てこないものが多いので、総務局のほうで今の進捗状況を総括的に委員会のどこかのタイミングで提示していただけると、評価の参考になるのかなと思いますが、いかがでしょうか。

○事務局（相川課長） そういった作業もさせていただきたいと思っております。

○木下委員 あと、もう一点が、財務的な話にしても、収益性の話なのか、資金繰りの話なのかといった大きな分けがあると思います。そのうち、コロナの関係で資金繰りが厳しい団体については、ヒアリングする際に事前に特に資金繰りの情報としてある程度現状がどうで、今後の投資などには、どれだけ回す余地があるのか、そして、今後、投資を行わなければならない場合には、財源を借入れ等の資金調達で行うのか、コスト削減でやるのか。コスト削減でする場合は、どういった部分でやるのか、固定費削減か、調達も含めた見直しなのか。そういったところを、説明は口頭なり文書ですが、そのベースになるような数値をはっきり出していただく形で御準備いただけると、より議論が具体的になるかなと思います。御検討いただけますでしょうか。

○事務局（相川課長） その点につきましては、まさにおっしゃるとおりだと思いますので、こちらもそういった団体につきましては、事前に資料を用意させていただきたいと思っております。

○木下委員 はい、よろしくお願いします。

○事務局（相川課長） ありがとうございます。宮木先生、何かございましたらお願いします。

○宮木委員 宮木でございます。

この評価シートというのは、この1つのフォーマットで全部の団体に対して配布して記入してもらうという理解で間違っていないですね。

○事務局（相川課長） はい。

○宮木委員 出てきた評価シートを、見る側のほうで類型なり分類なりに沿ってどこを評価していくのかというところを精査していくというところになるということですね。

○事務局（相川課長） はい。

○宮木委員 伺っていると、財務的な側面を中心に見るのか、見ないのかという軸が1本。もう一本の軸として、例えばコロナだからこそ今はチャンスとか、コロナだからこそ何かできるのではないかというような攻めができる団体と、コロナは関係なく粛々と通常業務を続ける団体という、非攻めのような軸があり、4象限で何かプロットされてきております。例えば、財務的な側面を見る団体／見なくていい団体と、コロナならではの工夫をしなければならない団体／そうでなくていい団体というのを分けたときに、それぞれどういった点を評価していく必要があるのか、チェックリストみたいなのがあるとありがたいと思います。また、最近、民間の中小企業の評価をする際にポイントとして社員のエンゲージメントやモチベーションなどを見るように言われていますが、これらを見なくていいのかというところが気になっております。今、そういった組織の価値として、やっぱり人を見ていくというところも視点としてすごく重要だと思いますが、そういった点については必要ないという理解でいいのかというところについても伺いたいと思います。

また、組織としてのサステナビリティを考える際、例えば、時代に合わせて変化しているかとか、そういう努力をしているかという、社会に対するサステナビリティだけでなく組織自体のサステナビリティみたいなところをどういう工夫をしているのかというところの視点は、これらの団体評価においては必要ないのかというところを伺いたいと思います。

○事務局（相川課長） はい、ありがとうございます。今回、お願いしています評価につきましては、もともとの2020年度の経営改革プランがございまして、そこがどこまで進捗して

いるのか、あるいはコロナの影響でできなかったのか。あるいは、書式のところで新しくお示しましたが、それができなかった代わりにコロナの中でどんな新しいことを団体としているのかとか、そういったところの進捗を見ていくということになります。ただ、先生のほうからも御指摘がございました財政のことや、組織の中の人のお話、あるいはサステナビリティなどにつきましては、5月に公表しております各団体が作ったプランをまた来年度に改訂していくこととなりますが、そういった作業の中で団体からのヒアリングを踏まえてこういったところは足りないのではないかとということをお指摘いただいて、さらにいいものにしていくと、そういった動きになろうかと思います。

○宮木委員 分かりました。ありがとうございます。

○事務局（久葉課長代理） 先生方、ほかにいかがでしょうか。

○上山委員 上山です。小さい話となりますが、各団の説明で型どおりの原稿を読むパターンの団体が幾つかあるが、やめてください。それから前回の宿題というのが必ずあり、議事録がある。ちゃんと読んできて欲しい。初めて聞く顔をされて、その説明をして時間が消える。引継をして、議事録は熟読してきてください。同じことを指摘されますよというのは、ちゃんと言っておいてください。

それと、人事異動で来たばかりの人ではなく、その上でも下でもいいから、一番よく分かっている人が対応してください。質疑応答までやって、玉碎されるパターンが非常に多い。こちらは容赦なく質問を続け、一切妥協しません。そこはちゃんと言っておいてください。時間が過ぎたら終わるだろうという、そんなことはなくて、宿題が出て、また呼出しがある。で、2回目は取りあえずまた偉い人を出せばいいだろうとなると、また呼出しがある。永遠に終わらなくて後ですごく後悔をされる団体が多い。しっかりとっておいてください。

○事務局（相川課長） その辺りは、貴重な時間が無駄にならないように徹底しておきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○上山委員 各団体、大体慣れてきて、すごくいい団体が多いのですが、人ががらっと変わると、途端にそうなる団体がいつも2～3団体あります。よろしくお願いします。

○事務局（久葉課長代理） ありがとうございます。ほかによろしいでしょうか。

それでは、以上で本日の議事は全て終了となります。本日の議事録につきましては、後日、グループ経営戦略課ホームページへ掲載いたします。以上で、第1回東京都政策連携団体経営目標評価制度に係る評価委員会を閉会いたします。

本日は御審議ありがとうございました。

－了－